学校番号	１０１５

令和２年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校美術１（日本文教出版）						
副教材等	使用していない						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・絵画、立体、デザインなどの実技を伴う「表現」と様々な芸術作品や他の生徒の作品を見て、他の人の感性や考え方を理解する「鑑賞」のふたつの領域を学習する。

・美術を通して何かを感じる力（感受性）、考える力（審美観）、伝える力（表現力）を身につける事をねらいと目標とする。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創作活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や創造力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現に活かすことができる。	美術作品や友人の作品を見て、その良さや工夫した点を理解し、味わうことができる。
評価方法	制作の様子 アイデアスケッチ グループワークの様子	アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	鑑賞中の態度 発言内容 鑑賞レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	鉛筆デッサン・レタリング	【絵画】 ・オリエンテーション 絵による自己紹介 ・鉛筆デッサン「立方体」 ・レタリング	○ ○ ○				a:対象を見つめて、形態の構造を理解することができる。 形態の単純化を理解できる。 立体の面に印刷されている文字を斜体で表現できる。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	アクリル絵具の技法	【絵画】 ・抽象表現 各自購入のアクリル絵具で、交じり合う色の美しさを感じながら抽象表現に挑戦する。6種類の色面を作りそれぞれに題名をつける。	○	○	○		a:混色のイメージを持ち、重なる色の美しさに気づかせる。 b:完全に交じり合うと１色の色になる為、その手前で筆を置き、効果的な色面を理解している。 c:抽象の面白さを理解し、アクリル絵具の特徴を理解している。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	鑑賞レポート	【鑑賞】 夏休みに開催される「高校展」を鑑賞しレポートを書く。	○			○	a: 鑑賞を通じて、作者の意図や表現の工夫、美しさに共感することができる。 ｄ：作品の良さを理解し、文章にまとめることができる。	鑑賞の内容
後期	未来ロボット	【絵画】 ・イメージ表現 ・鉛筆デッサン ・抽象表現 これまで学んできたことすべてを総ざらいする作品作りを行う。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		a:現代社会の中で活躍する「ロボット」の技術改革に興味を持ち、自らも世の中で活躍するロボットをイメージして創作する。 b:ロボットをデッサンの技術を活かし立体的に表現する。 c:ロボットのイメージをアクリル絵具で抽象的な色面として表現する。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	鑑賞レポート	【鑑賞】 1月に開催される「8ブロック展」を鑑賞し、レポートを書く。	○			○	a: 鑑賞を通じて、作者の意図や表現の工夫、美しさに共感することができる。 ｄ：作品の良さを理解し、文章にまとめることができる。	鑑賞の内容
	切り絵	【デザイン】 ・左右対称形の構成 ・カッターワーク 対象の文様を考え出し、美しいカットワークを施す。	○		○		a:西洋・東洋の伝統的な装飾文様に関心を示し、表現方法を工夫している。 ｃ：カッターの持ち方を体得し技術として定着させている。	学習活動の様子 制作の様子 作品